

# 河野多恵子参考文献目録

増 田 周 子

この目録は、河野多恵子及びその作品について記した文献を、  
一、文学辞(事)典 二、年譜 三、研究案内 四、文献案内 五、  
注解 六、文芸時評・書評・解説・人物論・その他、の六つに分類  
し、発行年月日順に列挙したものである。

記載の順序については、著者名・表題(発表雑誌名又は書名、発  
表年月日、巻号又は出版社名、掲載頁)である。『』は単行本、  
「」は雑誌・新聞を示す。なお、\*印は注記である。

河野多恵子は、作家であると共に『谷崎文学と肯定の欲望』や  
「文芸時評」などの評論の仕事もあり、書誌に関しても独自の見解  
を持っておられる。雑誌などは実際の発売月で記載しなければなら  
ないという考えである。河野多恵子の自筆年譜(『昭和文学全集』  
昭和62年12月1日、小学館、1026~1030頁)なども奥付け  
刊行年月でなく、発売月によって記載されている。しかし、図書館

などで借り出しを請求する場合、不都合である。また、発売日が東  
京と地方では一日か二日の差異があるし、単行本や大学紀要や同人  
雑誌など、実際の発売日が判明しないものも存在するから、ここで  
は敢えて奥付け記載の発行年月日順を採った。

未確認のものも多く、不完全なものであるが、現在活躍中の作家  
であるから、勿論増え続けることが予想される。加筆修正しながら、  
これからも力を尽くしたいと思っているので、諸兄姉の御教示を切  
望する。

## 一、文学辞(事)典

進藤純孝・河野多恵子(『新潮日本文学小辞典』昭和43年1月20  
日、新潮社、435~435頁)

大河内昭爾・回転扉 河野多恵子(「国文学入解釈と鑑賞」昭和49

年7月5日、第39卷9号、122～123頁）＊現代小説事典。

油野良子…第四十九回蟹（「国文学入解釈と鑑賞」昭和52年1月

5日、第42巻2号、328～329頁）＊芥川賞事典。

太田三郎…河野多恵子（「日本近代文学大事典第2巻」昭和52年11

月18日、講談社、18～20頁）＊「日本近代文学大事典入机上版」

（昭和59年10月24日、講談社、581～582頁）不意の声、回転扉 雙夢。

堀井哲夫…河野多恵子（「日本文学史辞典」昭和57年9月20日、京

都書房、188～188頁）

無署名…河野多恵子（「日本文学史辞典入近現代編」昭和62年2

月15日、角川書店、428～429頁）＊回転扉。

木谷喜美枝…河野多恵子幼児狩り（「国文学入解釈と教材の研究」

昭和62年7月25日、第32巻9号、215～215頁）＊作品別・近代文学

研究事典。

川村二郎…河野多恵子（「新潮日本文学辞典入改訂増補」昭和63

年1月20日、新潮社、475～476頁）

浦西和彦…河野多恵子（「奈良近代文学事典」平成1年6月20日、

和泉書院、108～109頁）＊思いがけない旅、二つの奈良。

## 二、年 譜

無署名…年譜（「現代文学大系66入現代名作集（四）」昭和43年6

月10日、筑摩書房、456～456頁）

無署名…河野多恵子年譜（「現代日本の文学50入曾野綾子・倉橋由

美子・河野多恵子集」昭和46年4月1日、学習研究社、446～448

頁）

無署名…河野多恵子年譜（「カラー版日本文学全集54入有吉佐和子

・瀬戸内晴美・河野多恵子」昭和46年8月30日、河出書房新

社、361～363頁）

小田切進…年譜入河野多恵子（「現代日本文学大系92入現代名作

集（二）」昭和48年3月23日、筑摩書房、419～420頁）

無署名…年譜入河野多恵子（「現代の文学33入河野多恵子・大庭み

な子」昭和48年9月16日、講談社、452～452頁）

河野多恵子…年譜（「不意の声入講談社文庫」昭和51年6月、講

談社）＊未確認。

河野多恵子…河野多恵子年譜（「筑摩現代文学大系83入瀬戸内晴美

・河野多恵子集」昭和52年5月15日、筑摩書房、459～463頁）

河野多恵子…年譜（「骨の肉入講談社文庫」昭和52年7月15日、

講談社、245～251頁）

編集部…年譜（「一年の牧歌・美少女入新潮現代文学60」昭和55

年11月15日、新潮社、391～394頁）

河野多恵子…年譜（「芥川賞全集6」昭和57年7月25日、文芸春

秋、523～527頁)

猪田和子…略年譜(山田有策編『女流文学の現在』昭和60年4月、

学術図書出版社、197～197頁) \*日付ナシ

河野多恵子…河野多恵子年譜(『昭和文学全集19』昭和62年12月1

日、小学館、1026～1030頁)

### 三、研究案内

和泉あき…現代名作集(二) 研究案内(『現代日本文学大系第92巻

月報86』昭和48年3月23日、筑摩書房、6～7頁)

浅野洋…河野多恵子(浅井清他編『研究資料現代日本文学2』小説

・戯曲1』昭和55年9月25日、明治書院、406～408頁)

近藤裕子…河野多恵子(『現代文学研究情報と資料』国文学解釈

と鑑賞』別冊』昭和61年11月20日、272～274頁)

### 四、文献案内

無署名…参考文献(『現代文学大系第66巻月報68』昭和43年6月10

日、筑摩書房、8～8頁) \*2点列記。

紅野敏郎…首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子主要文献一覧(『現

代日本の文学第五十巻』首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子集月

報38』昭和46年4月1日、学習研究社、7～7頁) \*7点列記。

20世紀文献要覧大系編集部…第2部文献目録(河野多恵子) (『日

本文学研究文献要覧1965～1974(昭和40年代)』20世紀

文献要覧大系2』昭和52年4月18日、日外アソシエーツ、164

165頁) \*18点列記。

与那覇恵子…参考文献(『現代女流作家論』昭和61年3月19日、審

美社、231～235頁) \*『雑誌論文』「書評・時評・月評・合評・そ

の他」『全集・文庫本解説等』に分類し、78点列記。

### 五、注 解

紅野敏郎…日高昭二…河野多恵子集注解(『現代日本の文学50』首

野綾子・倉橋由美子・河野多恵子集)』昭和46年4月1日、学習

研究社、436～438頁) \*みち潮、塚の中、劇場、最後の時。

小久保実…注釈(『カラー版日本文学全集54』有吉佐和子・瀬戸内

晴美・河野多恵子)』昭和46年8月30日、河出書房新社、352～352

頁) \*不意の声、幼児狩り、最後の時。

### 六、文芸時評・書評・解説・人物論・その他

駒田信二…同人雑誌評(『文学界』昭和35年10月1日、第14巻10号、

233～238頁) \*女形遣い。

石川利光…「幼児狩り」とその作者(『新潮』昭和37年1月1日、

第59巻1号、194～195頁)

伊藤整・井伏鱒二・大岡昇平・高見順・中山義秀・永井龍男・三島

由紀夫・選後評△第8回新潮社同人雜誌評選後評▽(「新潮」昭和37年1月1日、第59巻1号、198～200頁) \* 幼児狩り。

中村光夫・書きたいものを持つこと△第47回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和37年9月1日、第40巻9号、277～278頁) \* 雪。

瀧井孝作・子供っぽい作△第47回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和37年9月1日、第40巻9号、277～278頁) \* 雪。

井上靖・執拗な主題の追求△第47回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和37年9月1日、第40巻9号、280～281頁) \* 雪。

丹羽文雄・題名の秘密△第47回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和37年9月1日、第40巻9号、282～283頁) \* 雪。

高見順・あるいたまし△第47回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和37年9月1日、第40巻9号、282～283頁) \* 『高見順全集第14巻』(昭和47年3月25日、勁草書房、489～493頁)収録。雪。

白井浩司・女流作家の仕事△「文芸時評」▽(「文学界」昭和37年9月1日、第16巻9号、123～124頁) \* 美少女。

進藤純孝・人物記(「新刊ニュース」昭和37年9月15日、第13巻15号、25～28頁)

平野謙・河野多恵子著『幼児狩り』―特異な資質を示す短編集(「週

刊朝日」昭和37年9月28日、第67巻43号、92～93頁) \* 『新刊時評(上)』(昭和50年8月29日、河出書房新社、172～173頁)収録。

桂芳久・河野多恵子著『幼児狩り』―一応成功した作品―(「日本読書新聞」昭和37年10月1日、第1175号、3～3面)

つ・女流作家の新人たち②―河野多恵子さん―(「東京新聞」昭和37年10月23日夕刊、8～8面)

無署名・女のマゾヒズムとサディズムを追求した『幼児狩り』△「特選ダイジェスト」▽(「婦人公論」昭和37年11月1日、第47巻12号、284～285頁) \* この「特選ダイジェスト」欄の担当者、青池晨

・奥野健男・丸山邦男・村上兵衛。

河上徹太郎・十返肇・平野謙・1962年の文壇総決算△「座談会」▽(「文学界」昭和37年12月1日、第16巻12号、118～124頁) \* 幼児狩り・春愁。

瀧井孝作・「美少女」は佳い△第48回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、289～293頁)

高見順・推した理由△第48回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、290～291頁) \* 『高見順全集第14巻』(昭和47年3月25日、勁草書房、490～493頁)収録。美少女。

中村光夫・当選作なし△第48回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、291～291頁) \* 美少女。

中村光夫・当選作なし△第48回芥川賞選評▽(「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、291～291頁) \* 美少女。

舟橋聖一…推し切れず△第48回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、292～293頁）\*美少女。

丹羽文雄…「美少女」を推す△第48回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年3月1日、第41巻3号、293～294頁）\*美少女。

井上靖…「光芒」の軽さを惜しむ△第48回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年3月1日、294～295頁）\*美少女。

河上徹太郎・安岡章太郎・亀井勝一郎…創作合評―191回―（「群像」昭和38年4月1日、第18巻4号、240～243頁）\*夢の城。

玉…雑誌評△文学界（九月号）▽（「東京新聞」昭和38年8月15日夕刊、8～8面）\*禽鳥。

平野謙…今月の小説（下）ベスト3―病める現代小説の問題―（「毎日新聞」昭和38年8月30日夕刊、3～3面）\*『平野謙全集第11巻』（昭和50年10月25日、新潮社、116～116頁）収録。蟹、禽鳥、夜を往く。

山本健吉…文芸時評⑥―受賞作を出していない―（「東京新聞」昭和38年8月31日夕刊、8～8面）\*『文芸時評』（昭和44年6月30日、河出書房新社、282～282頁）収録。蟹、禽鳥、夜を往く。

林房雄…文芸時評（下）―受賞第一作に佳作なし―（「朝日新聞」昭和38年8月31日、11～11面）\*『文芸時評』（昭和40年4月15日、桃源社、116～117頁）収録。禽鳥・蟹・夜を往く。

高見順…尋常の才能ではない△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、277～277頁）\*『高見順全集第14巻』（昭和47年3月25日、勁草書房、491～491頁）収録。蟹。

井上靖…「蟹」を推す△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、277～278頁）

瀧井孝作…混沌とした味△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、278～278頁）\*蟹。

中村光夫…二作より一作△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、278～279頁）\*『中村光夫全集第14巻』（昭和48年8月10日、筑摩書房、455～455頁）収録。蟹。

永井龍男…消極的だった速考△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、279～279頁）\*蟹。

石川淳…どうにもならぬ△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、279～280頁）\*蟹。

石川達三…重量感に乏し△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、280～280頁）\*蟹。

川端康成…既存の作家にないもの△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、280～281頁）\*『川端康成全集第34巻』（昭和57年12月20日、新潮社、347～348頁）収録。蟹。

舟橋聖一…二作同点△第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年

9月1日、第41巻9号、281〜281頁）\*蟹。

丹羽文雄…上質の文学と極彩色の小説へ第49回芥川賞選評▽（「文芸春秋」昭和38年9月1日、第41巻9号、282〜282頁）\*蟹。

無署名…コントロールドタワー（「文学界」昭和38年9月1日、第17

巻9号、146〜147頁）\*蟹。

久保田正文…河野多恵子著美少女・蟹―微妙な心理の綾・家庭の日

常のさまざまな断面―（「日本読書新聞」昭和38年9月23日、第1225号、4〜4面）

瀬戸内晴美…河野多恵子の執念（「新潮」昭和38年10月1日、第60

巻10号、196〜197頁）

矢作勝美・朴春日・佐藤静夫・西野辰吉…新人の作品へ\*座談会▽

（「現実と文学」昭和38年11月1日、第27号、86〜87頁）\*蟹・  
禽鳥。

平野謙…今月の小説（下）ベスト3（「毎日新聞」昭和38年12月24

日夕刊、3〜3面）\*「平野謙全集第11巻」（昭和50年10月25日、新潮社、139〜139頁）収録。遠い夏。

山本健吉…文芸時評⑥―熱っぽい糾弾に終わる―（「東京新聞」昭

和39年4月28日夕刊、8〜8面）\*「文芸時評」（昭和44年6月30日、河出書房新社、324〜324頁）収録。脂怨。

林房雄…文芸時評へ中▽（「朝日新聞」昭和39年5月29日、11〜11

面）\*「文芸時評」（昭和40年4月15日、桃源社、278〜278頁）収録。蟻たかる。

日沼倫太郎…文芸時評6月―本質見抜けぬ裁断批評―（「日本読書新聞」昭和39年6月1日、第12660号、3〜3面）\*蟻たかる。

高橋和巳…人性▽の素材主義批判―へ文芸時評▽―（「文学界」昭

和39年7月1日、第18巻7号、137〜143頁）\*「高橋和巳全集第14巻」（昭和53年7月15日、河出書房新社、182〜182頁）収録。蟻たかる。

吉田足日…女流新人作家の三作―この現代に立ち向かえるか（「日本読書新聞」昭和39年7月13日、第12666号、5〜5面）\*夢

の城。

瀬沼茂樹…文芸時評⑥―頼もしい評論の新人―（「東京新聞」昭和39年7月25日夕刊、8〜8面）\*みち潮。

河上徹太郎・林房雄・平野謙…1964年の文壇総決算へ\*座談会▽（「文学界」昭和39年12月1日、第18巻12号、164〜165頁）\*  
幼児狩り。

尾崎秀樹…新年号展望―思想状況追究の時期・戦後文学を厳しく裁

く眼を―（「週刊読書人」昭和40年1月1日、第557号、8〜8面）\*返礼。

西美之…文学5月の状況―双壁な吉行と永井・一種の戦慄感じさせ

る巧みさ—(「週刊読書人」昭和40年4月26日、第573号、2〜2面) \* 男友達。

平野謙…今月の小説(上)—完結した河野多恵子の処女長編—(「毎日新聞」昭和40年4月29日夕刊、3〜3面) \* 『平野謙全集第11巻』(昭和50年10月25日、新潮社、233〜234頁)収録。男友達。

奥野健男…解説—『昭和戦争文学全集11』(戦時下のハイティーン)』昭和40年5月30日、集英社、468〜475頁) \* 堺の中。

平野謙…今月の小説(下) ベスト3 (「毎日新聞」昭和40年6月24日夕刊、3〜3面) \* 『平野謙全集第11巻』(昭和50年10月25日、新潮社、236〜238頁)収録。台に載る。

江藤淳…文芸時評(下) (「朝日新聞」昭和40年6月25日、7〜7面) \* 台に載る。

竹西寛子…文学7月の状況—「読ませる部分」をもつ河野—(「週刊読書人」昭和40年6月28日、第582号、2〜2面) \* 台に載る。

瀬戸内晴美…押しかけ客—(「文学界」昭和40年10月1日、第19巻10号、8〜9頁)

斯波四郎…河野多恵子著男友達—繊細な筆づかいで・嗜虐的な愛欲を細密に描く—(「週刊読書人」昭和40年11月1日、第598号、9〜9面)

江藤淳…文芸時評(下)—発掘し得る主題—(「朝日新聞」昭和40

年11月27日夕刊、9〜9面) \* 明るる日。

平野謙…今月の小説(上)—短編に静かな注目—(「毎日新聞」昭和40年11月29日、5〜5面) \* 『平野謙全集第11巻』(昭和50年10月25日、新潮社、263〜263頁)収録。明るる日。

竹西寛子…文学12月の状況—鮮やかな全力投球芝木・乱世に生きる義政の歎きを通して唐木—(「週刊読書人」昭和40年12月6日、第603号、2〜2面) \* 明るる日。

菊村到…物自体への凝視—文芸時評—(「文学界」昭和41年1月1日、第20巻1号、146〜152頁) \* 明るる日。

瀬戸内晴美…「才能の山」について—文芸時評—(「文学界」昭和41年2月1日、第20巻2号、122〜123頁)

平野謙…三月の小説(下) ベスト3 (「毎日新聞」昭和41年3月1日夕刊、3〜3面) \* 『平野謙全集第11巻』(昭和50年10月25日、新潮社、283〜283頁)収録。最後の時。

日野啓三…文芸時評3月—あまりに日本的な芥川賞受賞作・形而上的・歴史的・秩序への安住—(「週刊読書人」昭和41年3月7日、第615号、4〜4面) \* 最後の時。

江藤淳…文芸時評(下)—残酷な味・河野作品—(「朝日新聞」昭和41年6月29日夕刊、9〜9面) \* たたかい。

山本健吉…文芸時評(下)—職人気質を浮き彫り—(「読売新聞」

昭和41年6月29日夕刊、9〜9面）＊『文芸時評』（昭和44年6月30日、河出書房新社、415〜415頁）収録。たたかい。

平野謙…七月の小説（下）ベスト3（「毎日新聞」昭和41年6月30日夕刊、3〜3面）＊『平野謙全集第11巻』（昭和50年10月25日、新潮社、303〜303頁）収録。たたかい。

江藤淳…ことしの収穫ベスト5・文学（「朝日新聞」昭和41年12月14日、9〜9面）＊最後の時。

平野謙…一月の小説（上）―女流作家の暗い作品―（「毎日新聞」昭和41年12月23日夕刊、3〜3面）＊『平野謙全集第11巻』（昭和50年10月25日、新潮社、336〜336頁）収録。見つけたもの。

伊藤整・武田泰淳・平林たい子…創作合評―236回―（「群像」昭和42年1月1日、第22巻1号、310〜313頁）＊背誓。

雅…雑誌評入群像（2月号）▽（「東京新聞」昭和42年1月19日夕刊、8〜8面）＊邂逅。

平野謙…二月の小説（下）ベスト3（「毎日新聞」昭和42年1月27日夕刊、3〜3面）＊『平野謙全集第11巻』（昭和50年10月25日、新潮社、342〜342頁）収録。邂逅、魔術師。

本多秋五…文芸時評△下▽（「東京新聞」昭和42年1月28日夕刊、8〜8面）＊邂逅、魔術師。

月村敏行…文芸時評1・2月号―極彩色で描く女体切断の魔術・河野

多恵子トリヴィアルナ魔術師（2月）―（「日本読書新聞」昭和42年1月30日、第1392号、3〜3面）

山本健吉…文芸時評△下▽―作意の過剰と不足と―（「読売新聞」昭和42年1月31日夕刊、7〜7面）＊『文芸時評』（昭和44年6月30日、河出書房新社、448〜448頁）収録。邂逅、魔術師。

瀬戸内晴美…最後のもの（「新潮」昭和42年2月1日、第64巻2号、192〜193頁）

小山晴男…「邂逅」を読んで△＊読者論評▽（「群像」昭和42年2月1日、第22巻2号、296〜297頁）

井上靖…よろこばしい二中堅の受賞△第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、294〜294頁）＊最後の時。

円地文子…性質の違った二作品△第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、294〜294頁）＊最後の時。

佐多稲子…迷い抜いた決定△第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、294〜295頁）＊最後の時。

丹羽文雄…皮肉なほど対照的な二作品△第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、295〜295頁）＊最後の時。

野上弥生子…有吉さんの進歩に注目△第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、295〜296頁）＊『野上弥



生子全集第23卷』（昭和57年4月7日、岩波書店、76～77頁）収録。最後の時。

平野謙…粒ぞろいの候補作品へ第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、296～297頁）\*最後の時。

平林たい子…多かつた立派な仕事へ第6回女流文学賞選評▽（「婦人公論」昭和42年5月1日、第52巻5号、297～297頁）\*最後の時。

無署名…コントロールタワー（「文学界」昭和42年6月1日、第21巻6号、180～181頁）

竹西寛子…困難な作業―河野多恵子・丸谷才一・辻邦生―（「文学界」昭和42年8月1日、第21巻8号、80～81頁）

上田三四二…文芸時評2月―平手打ちをくらう・河野―（「週刊読書人」昭和43年1月29日、第71号、2～2面）\*不意の声。

篠田一士…文芸時評へ下▽（「東京新聞」昭和43年1月29日夕刊、8～8面）\*不意の声。

小島信夫…文芸時評（下）―意識下の女のうらみ・河野氏の「不意の声」―（「朝日新聞」昭和43年1月30日夕刊、7～7面）

平野謙…二月の小説（上）―惜しまれる発酵不足―（「毎日新聞」昭和43年1月30日夕刊、3～3面）\*『平野謙全集第11巻』（昭和50年10月25日、新潮社、402～404頁）収録。不意の声。

桶谷秀昭…文芸時評・2月―卑小な自己へ強い執着・石原や吉野の

私小説的な発想―（「日本読書新聞」昭和43年2月5日、第1443号、3～3面）\*不意の声。

徳田悟…「不意の声」を読んで△\*読者論評▽（「群像」昭和43年3月1日、第23巻3号、230～231頁）

武田泰淳・本多秋五・野間宏…創作合評―250回―（「群像」昭和43年3月1日、第23巻3号、243～250頁）\*不意の声。

奥野健男…解説（「現代文学大系66へ現代名作集（四）」昭和43年6月10日、筑摩書房、458～483頁）\*幼児狩り。

小松伸六…現代女流作家論（「現代文学大系第66巻月報68」昭和43年6月10日、筑摩書房、4～7頁）

虚（平野謙）…河野多恵子著「不意の声」―非現実世界がもつリアリティー―（「週刊朝日」昭和43年7月12日、第73巻29号、110～111頁）\*『新刊時評（下）』（昭和50年8月29日、河出書房新社、

89～90頁）収録。

吉田健一…現実と非現実の間で―河野多恵子著「不意の声」をめぐって△\*新書解体▽（「文学界」昭和43年9月1日、第22巻9号、143～147頁）

石川利光…河野多恵子著「不意の声」―現代の生の緊張感が・人間の深奥にひそむ情動を捉えて―（「週間読書人」昭和43年9月16日、第72号、4～4面）

佐伯彰一…この作家への提言(10)―河野多恵子の「反自然的」認識・無邪気で残酷な獣のたわむれの趣き―(「週刊読書人」昭和43年9月30日、第74号、4～4面)

川村二郎…複数形の現実―河野多恵子の作品に即して―(「現代文学の可能性」V(「群像」昭和43年12月1日、第23巻12号、220～228頁)大岡昇平…ことしの回顧ベスト5・文学(「朝日新聞」昭和43年12月10日夕刊、7～7面) \* 不意の声。

小島信夫・中村真一郎・平野謙・吉田健一・篠田一士(司会)…問題作をどう評価するか―文芸時評1968年―(「座談会」V(「文学界」昭和44年1月1日、第23巻1号、164～171頁) \* 不意の声。上田三四二…文芸時評3月―今月一等の作・河野多恵子氏の「骨の肉」吃水の深い現代の「雨月物語」として―(「週刊読書人」昭和44年3月3日、第76号、2～2面) \* 不意の声。

天沢退三郎…文芸時評―二元論のあつれきのはてに・河野多恵子「骨の肉」―(「日本読書新聞」昭和44年3月10日、第1498号、3～3面)

小田切秀雄・遠藤周作・佐伯彰一…創作合評―263回―(「群像」昭和44年4月1日、第24巻4号、245～249頁) \* 骨の肉。

三浦清宏…変貌のなかの声―現代文学の人間像―(「群像」昭和44年10月1日、第24巻10号、224～243頁) \* 不意の声。

佐伯彰一・上田三四二…文壇1969年パーソナルな文学の台頭―「個人の声」を文学に「饒舌派」と「反饒舌派」の登場―(「対談」V(「週刊読書人」昭和44年12月8日、第80号、1～1頁) \* 骨の肉。

佐伯彰一…ことしの回顧ベスト5・文学―不思議な作風漂う「骨の肉」―(「朝日新聞」昭和44年12月9日夕刊、7～7面)

上田三四二…河野多恵子著背誓(はいせい)・草いきれ―特殊さに普遍性の肉付け・「ものを書く女」の提示―(「週刊読書人」昭和45年2月9日、第82号、5～5面)

竹西寛子…道づれない旅(「群像」昭和45年3月1日、第25巻3号、128～133頁) \* 幼児狩り、蟹、最後の時。

磯田光一…河野多恵子「草いきれ」―生活虚構化のゆくえ―(「群像」昭和45年3月1日、第25巻3号、229～231頁) \* 「昭和作家論集成」(昭和60年6月20日、新潮社、510～511頁)収録。この時「生活虚構化のゆくえ」―「草いきれ」について―と改題。

無署名…『草いきれ』河野多恵子著(「婦人公論読書室」V(「婦人公論」昭和45年3月1日、第55巻3号、334～335頁) \* この「婦人公論読書室」欄の担当者、青池農・奥野健男・丸山邦男・村上兵衛。

川村二郎…内攻したプラトニズム―河野多恵子著『草いきれ』につ

いて―ハ\*新書解体▽(「文学界」昭和45年3月1日、第24巻3号、198〜203頁)

松本鶴雄・河野多恵子著・草いきれ―エゴとエロスの葛藤・存在感

の全てが抽象化を通して―(「日本読書新聞」昭和45年3月16日、

第1537号、5〜5面)

無署名・河野多恵子「幼児狩り」ハ\*処女作▽(「文学界」昭和45

年9月1日、第24巻9号、201〜201頁)

吉行淳之介・大江健三郎・「推薦文」(「回転扉」ハ純文学書下ろし

特別作品▽)昭和45年11月20日、新潮社、函)

川村二郎・ことしの読売小説ベスト3(「読売新聞」昭和45年12月

9日夕刊、5〜5面) \*回転扉。

中田耕治・中間小説時評Ⅱ下Ⅱ(「東京新聞」昭和45年12月12日夕

刊、8〜8面) \*三つの短い小説。

吉田知子・河野多恵子著・回転扉―脆い砂粒のように・現実と同質

の想像で二重の生―(「日本読書新聞」昭和45年12月21日、第1

576号、5〜5面)

秋山駿・文芸時評ハ上▽(「東京新聞」昭和45年12月25日夕刊、8

〜8面) \*「秋山駿文芸時評」ハ現代文学への架橋1970・6)

1973・12▽(昭和50年2月28日、河出書房新社、39〜40頁)

収録。\*回転扉。

磯田光一・慟哭或は死と芸術の成立ハ\*文学思想1970年▽

(「週刊読書人」昭和45年12月28日、第87号、2〜2面) \*草い

きれ・回転扉。

小島信夫・河野多恵子「回転扉」―真子のいないところの世界―

ハ\*本・批評と紹介▽(「朝日ジャーナル」昭和46年1月1日)

8日、第13巻1号、161〜162頁)

上田三四二・河野多恵子著「回転扉」―女主人公の意識の二重性―

ハ\*10枚書評▽(「週刊読書人」昭和46年1月4日、第88号、4

〜4面)

松(平野謙)・河野多恵子「回転扉」―夫一婦制度を内側から探

求―ハ\*週刊図書館▽(「週刊朝日」昭和46年1月8日、第76巻

2号、133〜133頁) \*「新刊時評(下)」(昭和50年8月29日、河

出書房新社、226〜227頁) 収録。

加賀乙彦・無時間性と存在―河野多恵子著「回転扉」(「海」昭和

46年2月1日、第3巻2号、114〜115頁)

清水徹・他者感覚の精密な劇を追いつめる―河野多恵子「回転扉」

―(「文芸」昭和46年2月1日、第10巻2号、213〜215頁)

竹西寛子・自己否定による自己解放の劇―河野多恵子「回転扉」―

(「群像」昭和46年2月1日、第26巻2号、282〜284頁)

進藤純孝・「回転扉」河野多恵子著ハ\*婦人公論読書室▽(「婦人

公論」昭和46年2月1日、第56巻2号、240～241頁)

八木義徳・新刊月評(「新刊ニュース」昭和46年2月15日、第22巻4号、31～33頁) \* 回転扉。

武田泰淳・現代にとつて文学とは何か(上)(下)(「読売新聞」昭和46年3月23日・24日、17～17面、17～17面) \* 「文人相軽ンズ」

(昭和51年12月16日、構想社、317～323頁)収録。この時「河野多恵子・加賀乙彦」と改題。

川村二郎・解説―問いを促す呼びかけ―(「不意の声」現代文学秀作シリーズⅤ)昭和46年3月24日、講談社、192～200頁) \* 「内部

の季節の豊穰」(昭和53年9月20日、小沢書店、89～98頁)収録。  
 浦田佑・首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子旅行ガイド(「現代日

本の文学第五十巻首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子月報38」昭和46年4月1日、学習研究社、11～11頁) \* 三、河野多恵子「思

いがけない旅」の奈良めぐり。  
 金井美恵子・河野多恵子文学紀行―わたし自身の内なる旅―(「現

代日本の文学50」首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子集Ⅴ)昭和46年4月1日、学習研究社、39～48頁)

奥野健男・評伝的解説「河野多恵子Ⅴ」(「現代日本の文学50」首野綾子・倉橋由美子・河野多恵子集Ⅴ)昭和46年4月1日、学習研

究社、472～480頁) \* 「女流作家論」(昭和49年6月20日、第三文

明社、172～173頁)収録。この時「河野多恵子」と改題。

秋山駿・河野多恵子著「回転扉」(「自由」昭和46年4月1日、第13巻4号、168～168頁)

諸田和治・細部への執拗な凝視―河野多恵子「回転扉」―(「早稲田文学」昭和46年4月1日、第3巻4号、118～119頁)

近藤功・河野多恵子・この蠱惑的な存在(「三田文学」昭和46年5月1日、第58巻5号、24～28頁)

無署名・河野多恵子小論(「群像」昭和46年6月1日、第26巻6号、24～24頁) \* 不意の声、回転扉。

秋山駿・文芸時評△下Ⅴ(「東京新聞」昭和46年6月30日夕刊、6～6面) \* 「秋山駿文芸時評」現代文学への架橋1970・6

1973・12Ⅴ(昭和50年2月28日、河出書房新社、71～71頁)収録。同胞。

秋山駿・文芸時評⑥(「東京新聞」昭和46年7月31日夕刊、4～4面) \* 「秋山駿文芸時評」現代文学への架橋1970・6～19

73・12Ⅴ(昭和50年2月28日、河出書房新社、76～76頁)収録。胸さわぎ。

平岡篤頼・変容と試行(「群像」昭和46年8月1日、第26巻8号、222～233頁) \* 回転扉。

佐々木基一・遠藤周作・上田三四二・創作合評―291回―(「群像」

昭和46年8月1日、第26巻8号、290～307頁）＊同胞。

高橋英夫…文芸時評・8月―現代的不可解性への自己防衛・後藤明生「行方不明」者の生活―（「日本読書新聞」昭和46年8月2日、第1607号、3～3面）＊胸さわぎ。

古屋健二…転回点の河野多恵子（「図書新聞」昭和46年8月7日、第1124号、3～3面）

石川利光…河野さんのこと（「カラー版日本文学全集」有吉佐和子・瀬戸内晴美・河野多恵子▽しおり・54）昭和46年8月30日、河出書房新社、3～3頁）

川村二郎…解説（「カラー版日本文学全集54」有吉佐和子・瀬戸内晴美・河野多恵子▽）昭和46年8月30日、河出書房新社、375～378頁）

市川泰…疑似古風を怒る△好きなあなたの嫌いなところ▽（「婦人公論」昭和46年11月1日、第56巻11号、82～83頁）

無署名…コントロールドワー（「文学界」昭和46年11月1日、第25巻11号、122～123頁）＊回転扉。

上田三四二…新鋭女流と現代（「群像」昭和46年12月1日、第26巻12号、170～180頁）＊不意の声。

黒井千次…沈黙を強いるもの―河野多恵子「骨の肉」―（「群像」昭和47年1月1日、第27巻1号、313～314頁）

小川国夫…河野多恵子著骨の肉―恋の気おくれの小説―（「東京新聞」昭和47年1月10日夕刊、4～4面）

無署名…河野多恵子著骨の肉―生の深淵みる傑作―（「読売新聞」昭和47年1月24日、8～8面）

無署名…河野多恵子著骨の肉―ただよう異様な気配―（「朝日新聞」昭和47年1月31日、11～11面）

一界旅人…河野多恵子「骨の肉」（「三田文学」昭和47年2月1日、第59巻2号、56～56頁）

高橋英夫…隠微な感応の世界―河野多恵子「骨の肉」―（「海」昭和47年2月1日、第4巻2号、208～209頁）

逆井尚子…河野多恵子論―反自然・反現実としての想像力（「早稲田文学」昭和47年2月1日、第4巻2号、26～52頁）

鶴田冬一…河野多恵子著「骨の肉」―女の性とはなにか―（「図書新聞」昭和47年2月5日、第1148号、4～4面）

無署名…河野多恵子著「骨の肉」―鋭い想像力の殺意―（「週刊読書人」昭和47年2月7日、第912号、5～5面）

天沢退二郎…肉の宇宙を彷彿う意識―河野多恵子「骨の肉」―（「文学」昭和47年3月1日、第11巻3号、229～231頁）

利沢行夫…女流作家における性意識△近代女流文学の思想▽（「国文学」昭和47年3月1日、第37巻3号、63～67頁）

## \* 回転扉。

櫻庭孝男…海外文学と戦後女流の文学へ\*近代女流文学の影響と背景▽(「国文学」解釈と鑑賞▽)昭和47年3月1日、第37卷3号、79~84頁) \* 幼児狩り、不意の声、回転扉。

吉田潤生…河野多恵子「回転扉」へ\*近代女流作家の作品▽(「国文学」解釈と鑑賞▽)昭和47年3月1日、第37卷3号、150~151頁)

巖谷大四…芥川賞・直木賞と現代女流作家(「国文学」解釈と鑑賞▽)昭和47年3月1日、第37卷3号、154~159頁)

松本鶴雄…河野多恵子「回転扉」の向う側こちら側(「背理と狂気」現代作家の宿命)昭和47年3月31日、笠間書院、378~384頁) \* 初出未詳。「文学者」か。

太田三郎…戦争体験が貫く文学―河野多恵子の世界―(「文芸」昭和47年4月1日、第11卷4号、218~228頁)

秋山駿…解説(「男友達」角川文庫▽)昭和47年4月15日、角川書店、220~225頁)

秋山駿…文芸時評①―長さと抽象性の並行―(「東京新聞」昭和47年9月28日夕刊、6~6面) \* 「秋山駿文芸時評」現代文学への架橋1970・6~1973・12▽(昭和50年2月28日、河出書房新社、146~147頁)収録。雙夢。

小川国夫・佐伯彰一…対談時評第9回(「文学界」昭和47年11月1

日、第26卷11号、263~273頁) \* 雙夢。

秋山駿・上田三四二・松原新一…創作合評―36回―(「群像」昭和47年11月1日、第27卷11号、286~291頁) \* 雙夢。

秋山駿…文芸時評②(「東京新聞」昭和47年12月28日夕刊、4~4面) \* 「秋山駿文芸時評」現代文学への架橋1970・6~1973・12▽(昭和50年2月28日、河出書房新社、167~167頁)収録。うたがい。

諸田和治…ネガティヴな表象(「創」昭和47年12月1日、第2卷12号、122~125頁) \* 雙夢。

川嶋至…文芸時評・1月―官能の閃光を捉える手並み・古井由吉「弟」(「文芸」「谷」(新潮)―(「日本読書新聞」昭和48年1月15日、第1685号、3~3面) \* うたがい、怪談、特別な時間。

田久保英夫・黒井千次…対談時評第12回(「文学界」昭和48年2月1日、第27卷2号、247~255頁) \* うたがい。

北川荘平・小島輝正・森川達也…鼎談文芸時評第4回(「新日本文学」昭和48年2月1日、第28卷2号、56~60頁) \* 雙夢。

瀬沼茂樹…解説(「現代日本文学大系92」現代名作集(二)▽)昭和48年3月23日、筑摩書房、403~404頁)

無署名…河野多恵子著雙夢―寓話的な幻想世界通じて・人間情念のドラマ―(「読売新聞」昭和48年3月26日、8~8面)

松原新一…批評根柢を問ひ直す（「群像」昭和48年4月1日、第28巻4号、220～224頁）\*雙夢。

無署名…河野多恵子著雙夢—硬質で衝撃的描写・現代小説実験の緊張感—（「毎日新聞」昭和48年4月23日、8～8面）

森万紀子…河野多恵子著雙夢—日常から離れた夢と希求・生々しいエロチシズムを伴って（「日本読書新聞」昭和48年4月23日、第1701号、5～5面）

秋山駿…文芸時評④—河野多恵子の言葉と森万紀子・田久保英夫・小川国夫氏らの作品—（「東京新聞」昭和48年4月26日夕刊、5～5面）\*「秋山駿文芸時評」現代文学への架橋1970・6）

1973・12（昭和50年2月28日、河出書房新社、183～185頁）収録。現代文学の面目。

鶴岡冬一…河野多恵子著雙夢—同じ夢みる男女の呪縛—（「図書新聞」昭和48年4月28日、第1210号、2～2面）

川村二郎…解説（「幼児狩り・蟹」新潮文庫）昭和48年4月30日、新潮社、289～294頁）

栗坪良樹…「回転扉」河野多恵子へ\*新作家・その問題作（「国文学」解説と鑑賞）昭和48年5月1日、第38巻6号、104～108頁）

無署名…コントロールドラワー（「文学界」昭和48年5月1日、第48

巻5号、204～205頁）\*雙夢。

高山鉄男…夢を悟る欲求と恐れ—河野多恵子「雙夢」—（「群像」昭和48年5月1日、第28巻5号、220～222頁）

砂…「雙夢」生の底に展開する異形の世界（「週刊朝日」昭和48年5月4日、第78巻20号、126～127頁）

無署名…河野多恵子著雙夢—夢の中で追う男と女—（「朝日新聞」昭和48年5月7日、11～11面）

三枝和子…河野多恵子著雙夢—男と女の關係を的確に—（「週刊読書人」昭和48年5月14日、第97号、5～5面）

磯田光一…極限をめざす夢のゆくえ—河野多恵子「雙夢」—（「文芸」昭和48年6月1日、第12巻6号、196～198頁）\*「昭和作家論集成」（昭和60年6月25日、新潮社、512～514頁）収録。

驚巢繁男…夢—あるひは愛と存在の地下劇場—河野多恵子「雙夢」—へ\*新思潮社（「すばる」昭和48年6月10日、12号、98～107頁）

十返千鶴子…「雙夢」河野多恵子著へ\*婦人公論読書室（「婦人公論」昭和48年7月1日、第58巻7号、327～328頁）

森川達也…へ反リアリズムへの価値転換をへ\*「批評の現場から」（「群像」昭和48年8月1日、第28巻8号、72～74頁）\*雙

夢。

松本鶴雄…河野多恵子（馬渡憲三郎編）「女流文芸研究」昭和48年8

月30日、南窓社、335～347頁)

上田三四二…回復への飢渴へ巻末作家論〓河野多恵子〓(『現代の文学』33〓河野多恵子・大庭みな子〓)昭和48年9月16日、講談社、436～442頁)

上総英郎…文芸時評―河野多恵子「変身」(「文芸」)・人間のうちに魔の衝動―(「日本読書新聞」昭和48年11月5日、第1731号、3～3面)

鶴岡冬一…河野多恵子著文学の奇蹟―真摯な息吹きを・芯の通ったエッセー集(「図書新聞」昭和49年4月13日、第1258号、4～4面)

金井美恵子…河野多恵子著文学の奇蹟―鋭く知的な感受性・深い批評精神を持った新しさ―(「日本読書新聞」昭和49年4月29日、第1758号、4～4面)

後藤明生・黒井千次…第27回対談時評(「文学界」昭和49年5月1日、第28巻5号、234～240頁)・\*扱ばれて在る日々。

小松伸六…デーモンと合差―河野多恵子「文学の奇蹟」(「文芸」昭和49年5月1日、第13巻5号、233～245頁)

鶴岡冬一…河野多恵子著私の泣きどころ―健全篤実な生活者―(「図書新聞」昭和49年5月18日、第1263号、4～4面)

萩原葉子…河野多恵子―何より誠実な人柄・今日の日本文学柱とし

て―人物スケッチ〓(「日本読書新聞」昭和49年5月27日、第1762号、1～1面)

吉田知子…河野多恵子著文学の奇蹟―正確で冷静な眼の確かさ―(「週刊読書人」昭和49年5月27日、第1030号、5～5面)

上総英郎…河野多恵子著無関係―超現実へ発展する着想力・危機感が張りつめ、未来は暗い―(「日本読書新聞」昭和49年6月17日、第1766号、5～5面)

川村二郎…物語と告白へ\*解説〓(『現代の女流文学第2巻』昭和49年9月20日、毎日新聞社、365～374頁)・\*不意の声。

無署名…雙夢河野多恵子へ\*愛についての10冊の本〓(『婦人公論』昭和49年11月1日、第59巻11号、113～113頁)・\*この「愛についての10冊の本」欄の担当者、進藤純孝・十返千鶴子。

大久保典夫…河野多恵子(「国文学」解釈と鑑賞〓)昭和49年11月5日、第39巻14号、186～193頁)

畑下一男…河野多恵子へ\*作家論からの臨床診断〓(「国文学」解釈と鑑賞〓)昭和49年11月5日、第39巻14号、194～195頁)・\*塀の中、幼児狩り。

本村敏雄…文芸時評―圧倒的な迫力と緊迫感に満ちる・不条理の煉獄に墮とされた者の苦惱三木卓「震える舌」―(『日本読書新聞』昭和49年11月11日、第1788号、2～2面)・\*血と貝殻。



無署名・河野多恵子著扱ばれて在る日々―執拗に根深く・人生の微細ひた探る―（「読売新聞」昭和49年11月12日、13～13面）

森内俊雄・河野多恵子著扱ばれて在る日々―女主人公の眼のたくま

しきへ家への執着のなさが自然に描かれ―（「日本読書新聞」

昭和49年12月9日、第1793号、5～5面）

須永朝彦・河野多恵子著「扱ばれて在る日々」―鮮かに虚の魅惑を

顯示―（「週刊読書人」昭和49年12月16日、第1059号、5～

5面）

進藤純孝・河野多恵子「扱ばれて在る日々」―生への困惑をあらわ

にした文体―（「サンデー毎日」昭和49年12月29日、第53巻53号、

69～70頁）

阿部昭・佐伯彰一・和田芳恵・読書鼎談（「文芸」昭和50年1月1

日、第14巻1号、249～256頁）\*扱ばれて在る日々。

川村二郎・日常の中の感応―河野多恵子「扱ばれて在る日々」―

（「文芸展望」昭和50年1月15日、第8号、138～139頁）

津島佑子・女という性の謎に迫る―河野多恵子「扱ばれて在る日

々」―へ\*批評と紹介（「朝日ジャーナル」昭和50年2月21日、

第17巻7号、65～66頁）

無署名・コントローラタワー（「文学界」昭和50年3月1日、第29

巻3号、176～177頁）

上田三四二・川村二郎・平岡篤頼（司会）..女流作家の新傾向―河

野多恵子の子感的・暗合的世界―へ\*座談会（「群像」昭和50

年3月1日、第30巻3号、144～149頁）\*雙夢、扱ばれて在る日々、

同胞、骨の肉、怪談、変身、回転扉、蟹。

日野啓三・解説（「最後の時へ角川文庫」昭和50年4月30日、角

川書店、261～265頁）

川村二郎・解説（「草いきれへ文春文庫」昭和50年5月25日、文

芸春秋、323～334頁）\*「内部の季節の豊穣」（昭和53年9月20日、

小沢書店、98～111頁）収録。

高橋悦子・夫の物・妻の物へ\*読者のひろば（「婦人公論」昭和

50年6月1日、第60巻6号、380～381頁）

古屋健三・複雑な豊かさをもった観念の輝き―河野多恵子著「血と

貝殻」（「波」昭和50年10月1日、第9巻10号、26～27頁）

黒井千次・解説（「思いがけない旅へ角川文庫」昭和50年10月20

日、角川書店、282～287頁）\*「小説家の時計」（昭和52年5月16

日、構想社、94～98頁）収録。この時「河野多恵子」と改題。

百目鬼三郎・河野多恵子（「現代の作家11人」昭和50年10月20日、

新潮社、81～83頁）

無署名・河野多恵子著血と貝殻―微妙に動く女性の心・細かく不気

味な幻想描く―（「読売新聞」昭和50年11月17日、10～10面）

無署名：「血と貝殻」日常性の中の異常差（「週刊読売」昭和50年

11月22日、83～83頁）＊未確認

松田修：「血と貝殻」（「サンデー毎日」昭和50年11月23日、82～

82頁）＊未確認

加藤郁平：河野多恵子著血と貝殻―泰然たる観察者ぶり・男女関係

や物類相感の機微を鮮かに（「週刊読書人」昭和50年11月24日、

第1107号、5～5面）

無署名：河野多恵子著血と貝殻―平凡な日常の中の異常（「朝日新

聞」昭和50年12月8日、10～10面）

河盛好蔵・黒井千次・瀬戸内晴美：読書鼎談（「文芸」昭和51年1

月1日、第15巻1号、232～243頁）＊血と貝殻。

十返千鶴子：「血と貝殻」△＊婦人公論読書室▽（「婦人公論」昭

和51年1月1日、第61巻1号、358～359頁）

出口裕弘：「執拗」の構図―河野多恵子「血と貝殻」（「海」昭和

51年1月1日、第8巻1号、250～252頁）

小島信夫：解説（「無関係△中公文庫▽」昭和51年3月10日、中央

公論社、303～314頁）

熊坂敦子：近代女流文学の軌跡と現在（「国文学△解釈と教材の研究▽」

昭和51年7月20日、第21巻9号、18～25頁）＊蟹、不意の

声、回転扉。

大河内昭爾：「回転扉」河野多恵子△作品論・70年代の女流文学▽

（「国文学△解釈と教材の研究▽」昭和51年7月20日、第21巻9

号、111～114頁）

円谷真護：文芸時評―ブーメランを造りに（「新日本文学」昭和51

年8月1日、第31巻8号、101～107頁）＊稚児。

河野信子：女流文学における日常と反日常△＊女流文学―存在・認

識・創造▽（「国文学△解釈と鑑賞▽」昭和51年9月1日、第41

巻11号、34～42頁）

久保田芳太郎：女流文学のエロティシズム△＊女流文学―存在・認

識・創造▽（「国文学△解釈と鑑賞▽」昭和51年9月1日、第41

巻11号、43～51頁）＊自戒、回転扉。

山田有策：男を描く女流文学の眼―近代より現代へ―（「国文学

△解釈と鑑賞▽」昭和51年9月1日、第41巻11号、77～83頁）＊

幼児狩り、不意の声。

中山和子：女流文学が描く女性意識の諸相（「国文学△解釈と鑑

賞▽」昭和51年9月1日、第41巻11号、107～118頁）＊回転扉。

松田悠美：河野多恵子「回転扉」の真子（「国文学△解釈と鑑賞▽」

昭和51年9月1日、第41巻11号、128～129頁）

平山城児：谷崎文学と肯定の欲望河野多恵子著―意表つく大阪人の

目―（「日本経済新聞」昭和51年9月12日、20～20面）

無署名・河野多恵子著谷崎文学と肯定の欲望―創造の力学見きわめ

・谷崎論に新しい照明―(「読売新聞」昭和51年9月27日、9)

9面)

上田三四二・河野多恵子著谷崎文学と肯定の欲望―マゾヒズムから

追求―(「東京新聞」昭和51年10月2日) \*未確認。

無署名・河野多恵子著谷崎文学と肯定の欲望―独自の視点からの論

証―(「朝日新聞」昭和51年10月25日、10) 10面)

川村二郎・現世の神秘家―河野多恵子「谷崎文学と肯定の欲望」

(「文学界」昭和51年11月1日、第30巻11号、208) 213頁) \*「内

部の季節の豊穣」(昭和53年9月20日、小沢書店、111) 122頁) 収

録。

大久保典夫・大阪生まれの女流作家の目―河野多恵子「谷崎文学と

肯定の欲望」―(「すばる」昭和51年12月5日、第26号、300) 303頁)

百目鬼恭三郎(編集委員)・「76回顧文学」―「戦後文学」に一つの幕

・女流作家に好作品―(「朝日新聞」昭和51年12月14日夕刊、5

) 5面) \*谷崎文学と肯定の欲望。

出口裕弘・スリルにみちた精細な分析―河野多恵子「谷崎文学と肯

定の欲望」―(「海」昭和52年1月1日、第9巻1号、272) 271頁)

赤塚行雄・第四十九回少年の橋・後藤紀一、蟹・河野多恵子入\*選

評と受賞作家の運命(「国文学」へ解釈と鑑賞) 昭和52年1月

5日、第42巻2号、133) 135頁)

中村光夫・河野多恵子谷崎文学と肯定の欲望―深い愛情こめ独自の

谷崎論―(「読売新聞」昭和52年2月1日、6) 6面)

巖谷大四・女流文学者会へ\*物語女流文壇史最終回(「婦人公論」

昭和52年2月1日、第62巻2号、324) 333頁)

森敦・川村二郎・田久保英夫・想像力を導く力へ創作合評14(「群

像」昭和52年2月1日、第32巻2号、306) 312頁) \*見知らぬ男。

無署名・「谷崎文学と肯定の欲望」の河野多恵子さん―横溢する生

の喜びこそ―(「読売新聞」昭和52年2月4日夕刊、5) 5面)

\*第28回読売文学賞受賞者を訪ねて。

森川達也・河野多恵子著谷崎文学と肯定の欲望―決定的な視点を提

起―(「日本読書新聞」昭和52年2月21日、第1894号、5)

5面)

円谷真護・文芸時評―「私」の居場所―(「新日本文学」昭和52年

3月1日、第32巻3号、94) 99頁) \*鉄の魚。

亀井秀雄・人と文学・女に性別されて―河野多恵子―(「筑摩現代

文学大系83) 瀬戸内晴美・河野多恵子集(「昭和52年5月15日、

筑摩書房、465) 471頁)

田久保英夫・解説(「骨の肉」へ講談社文庫) 昭和52年7月15日、

講談社、237) 241頁)

無署名…河野多恵子著砂の檻―中年女性の日常に異性の裂け目追う

1 「読売新聞」昭和52年8月22日、9～9面

奥野健男…河野多恵子と貝殻（『作家の表象―現代作家116―』昭和

52年9月5日、時事通信社、103～105頁）\*初出「サンケイ新聞」

年月日未詳。

佐伯彰一…「こだわり」の力学―河野多恵子「砂の檻」（「海」昭

和52年10月1日、第9巻10号、274～276頁）

梅原稜子…河野多恵子△砂の檻▽生の深奥の耀き△\*新書解体▽

（「文学界」昭和52年10月1日、第31巻10号、332～337頁）

菅野昭正…人生の光景△\*新著月評▽（「群像」昭和52年10月1日、

第32巻10号、291～297頁）\*砂の檻。

十返千鶴子…「砂の檻」△\*婦人公論読書室▽（「婦人公論」昭和

52年10月1日、第62巻10号、331～333頁）

中島梓…荒涼とした静寂漂う短編集―「砂の檻」河野多恵子―（「朝

日ジャーナル」昭和52年10月7日、第19巻40号、70～71頁）

秋山駿…河野多恵子「砂の檻」―中年女の日常と性を犀利に描く―

（「週刊ポスト」昭和52年11月25日、第9巻46号、91～92頁）

古屋健三…昭和52年度の文学―小説家の毒―（「文学界」昭和53年

1月1日、第32巻1号、210～221頁）\*鉄の魚。

松本鶴雄…河野多恵子著遠い夏―私小説的な連作・肩ひじ張らぬ側

面を示す（「図書新聞」昭和53年1月21日、第1406号、7～

7面）

奥野健男…野心的な試み―河野多恵子「いすとりえっと」―（「海」

昭和53年2月1日、第10巻2号、198～200頁）

嶋岡晨…「遠い夏」河野多恵子―青春を奪った時代へのマゾヒスト

ックな抗議―（「MORE」昭和53年4月1日、第2巻4号、29

～29頁）

谷沢永一…いかにも現代的な文学的人生論―「もうひとつの時間」

河野多恵子著（「50冊の本」昭和53年6月1日、第1巻2号、54

～56頁）\*「読書人の壺中」（昭和53年11月10日、冬樹社、222～

226頁）収録。

川村二郎…連載78文芸時評（七）（「文芸」昭和53年7月1日、第

17巻7号、20～26頁）\*「文芸時評」（昭和63年11月8日、河出

書房新社、53～53頁）収録。妖術記。

奥野健男…河野多恵子（「奥野健男作家論集5」昭和53年7月31日、

泰流社、239～248頁）

無署名…コントロールタワー（「文学界」昭和53年9月1日、第32

巻9号、154～155頁）

奥野健男…河野多恵子（「素顔の作家たち―現代作家132人―」昭和

53年11月25日、集英社、376～380頁）\*初出「新刊ニュース」発行

年月日未詳。

石崎等…現代作家山人の文体―河野多恵子（「国文学」解釈と教材の研究）昭和53年11月25日、第23巻15号、227～233頁）\*砂の檻。

無署名…河野多恵子著妖術記―特異で濃密な感覚世界―（「朝日新聞」昭和53年12月17日、9～9面）

川村二郎…情熱に貫かれた意志の生理―河野多恵子著「妖術記」

（「波」昭和54年1月1日、第13巻1号、29～30頁）

バルバラ吉田クラフト…女流文学雑感（「新潮」昭和54年3月1日、

第76巻3号、186～187頁）

奥野健男…自己に対する疑いと自戒―河野多恵子「妖術記」（「海」

昭和54年3月1日、第11巻3号、288～290頁）\*「小説の中の人間

たち―関係性の文学―」（昭和56年5月10日、集英社、144～151頁）

収録。この時、「呪術という超能力―河野多恵子「妖術記」と

改題。

神田由美子…河野多恵子（「国文学」解釈と鑑賞）昭和54年4月

1日、第44巻4号、150～158頁）

無署名…コントロールタワー（「文学界」昭和54年4月1日、第33

巻4号、116～117頁）

石原慎太郎・坂上弘・中上健次…読書鼎談（「文芸」昭和54年4月

1日、第18巻3号、226～242頁）\*妖術記。

奥野健男…小説の中の「関係」第15回―超能力を得た女の復讐―

（「新鮮」昭和54年6月1日、第3巻5号、193～196頁）

発田和子…倉橋由美子「靈魂」の幻想質―河野多恵子「わかれ」と

の対比―（「国文学」解釈と鑑賞）昭和54年9月1日、第44巻

10号、126～132頁）

庄司肇…河野多恵子論（「日本きやらばん」昭和54年10月1日、第

42号、1～16頁）

無署名…昭和五十四年度文壇の鳥瞰と総括（「週刊ポスト」昭和54

年12月21日、第11巻50号、97～97頁）

川村二郎…連載80文芸時評（二）（「文芸」昭和55年1月1日、第

19巻1号、22～24頁）\*「文芸時評」（昭和63年11月8日、河出

書房新社、162～163頁）収録。一年の牧歌。

山田有策…河野多恵子―「回転扉」の真子―\*名作の中のおんな

101人（「国文学」解釈と教材の研究）昭和55年3月25日、第

25巻4号、204～205頁）

神田由美子…河野多恵子―母性憧憬の逆説―（「国文学」解釈と鑑

賞）昭和55年4月1日、第45巻4号、46～52頁）

無署名…河野多恵子著一年の牧歌―内面の喜び尋ねて―（「読売新

聞」昭和55年4月14日、11～11面）

無署名…河野多恵子著一年の牧歌―明るさ見える禁欲生活（「朝日

新聞」昭和55年4月27日、11～11面)

無署名…一年の牧歌河野多恵子著—女の官能のナツ・静養生活の異常な禁止の中で—(「毎日新聞」昭和55年4月28日、8～8面)

本吉洋子…モノトーンなタッチで描かれたOLのモノトーンな日常

—河野多恵子「一年の牧歌」(「50冊の本」昭和55年5月1日、第3巻5号、30～31頁)

上総英郎…河野多恵子著一年の牧歌—新しい一面が見られ性行為の禁止が自由を生ずる—(「日本読書新聞」昭和55年5月12日、第2056号、5～5面)

田久保英夫…禁忌の秘蹟—「一年の牧歌」河野多恵子へ\*本√(「新潮」昭和55年6月1日、第77巻6号、190～191頁)

佐伯彰…日常性とロマンスの間—「正四面体」—「一年の牧歌」など—(「新潮」昭和55年6月1日、第77巻6号、192～203頁)

磯田光一…巧緻をきわめた性欲小説—河野多恵子「一年の牧歌」—(「群像」昭和55年6月1日、第35巻6号、332～333頁)

佐伯彰…受け身の力業—河野多恵子「一年の牧歌」—(「海」昭和55年6月1日、第12巻6号、222～224頁)

森川達也…河野多恵子へ一年の牧歌√支配する性へ\*新書解体√(「文学界」昭和55年8月1日、第34巻8号、228～231頁)

無署名…谷崎潤一郎賞河野多恵子「一年の牧歌」(「週刊読書人」

昭和55年9月29日、第1350号、8～8面)

N…「一年の牧歌」で第16回谷崎潤一郎賞を受賞した河野多恵子氏—選択としての「禁欲」—(「日本読書新聞」昭和55年10月6日、第2076号、2～2面)

円地文子…「鳳仙花」についてへ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、321～321頁)\*一年の牧歌。

遠藤周作…危険な冒険に挑んだ作品へ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、321～322頁)\*一年の牧歌。

大江健三郎…女流作家のしたたかさへ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、322～322頁)\*一年の牧歌。

大岡昇平…選評へ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、322～322頁)\*一年の牧歌。

丹羽文雄…感想へ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、323～323頁)\*一年の牧歌。

丸谷才一…河野さんの針箱へ第16回谷崎潤一郎賞選評√(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、324～324頁)\*一年の牧歌。

吉行淳之介…河野氏存在と作品へ第16回谷崎潤一郎賞選評√

(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、324～325頁) \* 一年の牧歌。

古井由吉…河野さんの魔力△\*人▽(「新潮」昭和55年11月1日、第77巻11号、135～135頁)

司…人物交差点(「中央公論」昭和55年11月1日、第95巻14号、52～53頁)

山崎正和…時代の崩壊―「歴史の亀裂」・完―(「新潮」昭和55年11月1日、第77巻11号、226～232頁) \* 「曖昧への冒険」(昭和55年5月20日、新潮社、229～234頁)収録。一年の牧歌。

磯田光一…解説(「谷崎文学と肯定の欲望△中公文庫▽」昭和55年11月10日、中央公論社、305～311頁)

川村二郎…解説(「一年の牧歌・美少女△新潮現代文学60▽」昭和55年11月15日、新潮社、384～390頁)

風…河野多恵子「一年の牧歌」―大家のうま味―(「週刊文春」昭和55年11月20日、第22巻47号、117～117頁)

篠田一士…守成の妙―1980年(「新潮」昭和55年12月1日、第77巻12号、208～217頁) \* 一年の牧歌。

磯田光一…小説ことしのベスト3(「読売新聞」昭和55年12月17日夕刊、7～7面) \* 一年の牧歌。

柘植光彦…女流における幻想とリアリティ―河野多恵子・高橋たか

子を軸として(「国文学△解釈と教材の研究▽」昭和55年12月20日、第25巻15号、108～111頁)

神田由美子…河野多恵子―「性と生」との相克△\*女流作家における「女」▽(「国文学△解釈と鑑賞▽」昭和56年2月1日、第46巻2号、171～173頁)

八橋一郎…河野多恵子(「五十人の作家(七)」昭和56年9月5日、青弓社、96～105頁)

荻田和子…河野多恵子「男友達」の意味(「目白近代文学」昭和57年6月5日、第3号、48～57頁)

与那瀬恵子…河野多恵子論―支配する性―(「文研論集」昭和56年9月21日、第7号、113～136頁)

篠津恵美…「一年の牧歌」―多恵子の世界(「文学地帯」昭和56年11月20日、第58号、95～97頁) \* 特集・河野多恵子「一年の牧歌」について。

松竹京子…不思議な重たさ(「文学地帯」昭和56年11月20日、第58号、97～98頁) \* 特集・河野多恵子「一年の牧歌」について。

関在一郎…「一年の牧歌」の文学圏―その人間と心理操作―(「文学地帯」昭和56年11月20日、第58号、99～102頁) \* 特集・「一年の牧歌」について。

風聞山人識…侃侃諤諤(「群像」昭和57年3月1日、第37巻3号、

無署名・河野多恵子著気分について(「日本読書新聞」昭和57年12月6日、第2185号、5~5面)

石毛春人・新刊書評(「新刊ニュース」昭和58年2月1日、第34巻2号、30~30頁) \*気分について。

武田友寿・母性への訣別—河野多恵子『不意の声』—(『美しかれ

悲しかれ—女流文学に見る女の愛と生涯—」昭和58年4月15日、

主婦の友社、185~193頁) \*初出「聖母の騎士」発行年月日未詳。

玉置邦雄・河野多恵子「不意の声」の吁希子(「国文学入解釈と教材の研究」昭和59年3月25日、第29巻4号、92~93頁)

無署名・芸術院賞に10氏(「朝日新聞」昭和59年4月5日、22~22面)

無署名・58年度・芸術院賞に10氏(「毎日新聞」昭和59年4月5日、22~22面)

無署名・侃侃諤諤(「群像」昭和59年7月1日、第39巻7号、418~419頁)

発田和子・マゾヒズムと女流文学—平林たい子から河野多恵子へ(「目白近代文学」昭和59年10月1日、第5号、65~93頁) \*「女

流作家の真髓」(昭和62年7月20日、不二出版、34~86頁)収録。  
発田和子・河野多恵子(山田有策編「女流文学の現在」昭和60年4

月、学術図書出版社、197~206頁) \*日付ナシ

三宅晶子・ベルリン世界文化祭に参加した日本の作家達(「海外文学ジャーナル・ドイツ」(「新潮」昭和60年9月1日、第82巻9号、278~279頁)

松本鶴雄・河野多恵子入現代女流作家の群像(「国文学入解釈と鑑賞」昭和60年9月1日、第50巻10号、77~78頁)

後藤明生・何が「衰弱したのか」(「窓」(「新潮」昭和61年3月

1日、第83巻3号、240~241頁)

無署名・侃侃諤諤(「群像」昭和61年4月1日、第41巻4号、316~317頁)

与那覇恵子・河野多恵子「二年の牧歌」—性の自由の獲得—(「国文学入解釈と教材の研究」昭和61年5月20日、第31巻5号、108~110頁)

岡田弘子・河野多恵子・富岡多恵子『嵐ヶ丘ふたり旅』—作家の目

で迫る欧州紀行—(「サンデー毎日」昭和61年8月17日、第65巻33号、131~131頁)

無署名・侃侃諤諤(「群像」昭和62年2月1日、第42巻2号、298~299頁)

清水靖子・芥川・直木賞選考委に初の女流四氏(「サンデー毎日」昭和62年6月14日、第66巻23号、166~167頁)



松下千里…一隅の発見―河野多恵子論（「群像」昭和62年8月1日、第42巻8号、276〜288頁）\*不意の声、蟹、幼児狩り、塚の中、回

転扉。

無署名…侃侃誘誘（「群像」昭和62年8月1日、第42巻8号、328〜

329頁）

宮内豊…新旧問答△\*批評季評▽（「群像」昭和62年10月1日、第

42巻10号、350〜355頁）

無署名…門外不出―河野多恵子―△\*びーぶる▽（「週刊文春」昭

和62年10月8日、第29巻39号、52〜52頁）

川村二郎…河野多恵子・人と作品（「昭和文学全集19」昭和62年12

月1日、小学館、999〜1004頁）

尾形明子…河野多恵子「男友達」の市子（「現代文学の女たち」昭和

63年10月20日、ドメス出版、90〜93頁）

栗坪良樹…解題△\*河野多恵子「骨の肉」▽（井上靖他編「日本の

短篇上」平成1年3月25日、文芸春秋、556〜557頁）

与那覇恵子…女性作家の戦中から戦後へ―身体性の獲得―（「国語

と国文学」平成1年5月1日、第66巻5号、177〜187頁）\*幼児狩

り。

無署名…「鳥にされた女」河野多恵子著（「朝日新聞」平成1年8

月6日、12〜12面）

## 校正追加

日沼倫太郎…河野多恵子著幼児狩り―サディスティックな資質―

（「図書新聞」昭和37年9月22日、第67号、3〜3面）

八木義徳…河野多恵子幼児狩り―ユニークな才能―（「週刊読書人」

昭和37年10月8日、第45号、3〜3面）

林富士馬…河野多恵子著夢の城―繊細で鋭い感覚―（「週刊読書人」

昭和39年5月11日、第52号、3〜3面）

山口瞳…女を書ける女流作家・河野多恵子氏△\*表紙の人▽（「文

芸」昭和40年4月1日、第4巻5号、90〜91頁）

白石省吾…陰面の世界濃密に△\*人間登場▽（「読売新聞」昭和55

年10月4日、4〜4面）

無署名…河野多恵子さん―一人だけの受賞式―（「読売新聞」昭和

55年10月16日夕刊、9〜9面）

無署名…河野多恵子△\*福武書店の女流シリーズ▽（「福武の本」

昭和59年12月、16〜16頁）\*刊記なし。